



# 善正寺だより

〒:512-0902  
 三重県四日市市  
 小杉町1014  
 浄土真宗  
 本願寺派  
 善正寺  
 ☎:059-331-1670  
 fax:059-332-0733

## 掲示板法話

### 心は妄念消えざれど

### 身は本願の中にあり

(小桜秀謙師)



今年も早や、師走となりました。コロナ禍に戸惑いつつも、沢山の方々がこの世の命を終えられた一年でもありません。施設や入院中の肉親に対する面会が制限され、また、通夜、葬儀も限られた方々だけで済みますなど、人間的なつながりが希薄になる寂しさを感じます。

「死んだら、おしまい」というのが、それは今しか知らぬ凡夫の盲見でしょう。現在、過去、未来を貫く時空を超えた真実、真の智慧が大慈悲として働き、南無阿弥陀仏のお喚び声となって、あなたをお浄土に招きたまひ、仏さまの仲間になるのだよ、との仰せにあずかることが大切です。肉親との別れは、命の教育、仏法相続の大切な仏縁です。

さて今月、父の三十三回忌、母の三十七回忌をお勤めします。私の両親が亡くなった時、まだ生まれてもいなかった十歳の孫が、父の残した俳句を見て、「これはいい句だね」と言うのです。小学生にこの句の良さがわかるのだろうか、と思います。お浄土の亡父も喜んでくれているのではないか、と思います。

その「冬もみじ母なる土に召され往く」という俳句は、父が最晩年に詠んだ句らしく、冒頭に、「素懐」、釋尚爾と記され、俳句の後には次のような添え書きが付け加えられてあります。

「散りて土に還る 是自然なり 浄土の往生 是必然なり 願力無窮にして自然 ああ有難き哉」という添書は父の絶筆かと思われます。

だんだん衰えてゆく父が、晩秋から冬に差し掛かる頃、散り行くもみじの葉にわが身の行く末を重ねて詠んだのでしよう。散り行くもみじが土に還り、また新しい命を育てる。それは自然の成り行きであるが、この世の縁尽きて、お浄土に召され往生させて頂くのは阿弥陀さまの本願力のお働きであり、自然にして必然の理である。何と有難いことであろうか！そんな肉声が聞こえてくるようであり、時を経て俳句少年・心孫の心に響いたのでしよう。

父より7歳も若い母が先立つてから

も、父は詩吟の会合に出かけたり、ご門徒さんのお参りにも行つてくれました。しかし、腸閉そくの激しい痛みにより緊急手術を受け、人工肛門をつける身になってから急速に衰えました。最晩年の3か月、寝たきりの、自宅介護生活でしたが、時折父の寝室から「お説教らしき声が聞こえてきました。「心は妄念消えざれど、身は本願の中にあり。有難いですなあ。なまんだぶつ、なまんだぶつ...」この声でした。

お念仏の救いに遇うならば、無量寿のいのちを賜り、今も還相回向のお働きを続けて下さるのだ、と気づかせて頂きます。子や孫に仏法が伝えられるよう、仏縁を重ねたいものです。

## ☆行事ご案内☆

### ◇お内仏報恩講

12月3日(土)午前10時半より

今年もお持ち帰り弁当用意。秋勸進の時に参加申し込みと弁当数を受付。家族複数も可。電話受付 11月末まで

### ◇秋勸進 11月23日(祝)午前8時より

行事、世話方、住職が手分けして巡回。お内仏報恩講の出欠と弁当数も伺います。秋勸進とは初穂米代わりの懇志です、皆様のご協力よろしくお願ひします！

◇除夜の鐘 12月31日夜11時45分より開始  
誰でも撞けます。ご家族お揃いでお越し下さい

◇元旦会 1月1日午前9時本堂で正信偈、住職法話

◇毎夕5時の鐘撞き 年中無休、子供に開放、ご褒美あり

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索。一年分の寺報閲覧、毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設14年4ヶ月で39万2千訪問、悩み相談即返信  
一縁会テレホン法話週替わり5か寺Tel059-354-1454

新納骨堂：後継者の無い方お墓でお困りの方相談下さい

法事場所：お困りの方、寺にご相談下さい。本堂使用可

緊急募集 お急ぎ下さい！奮ってご応募を、11月末まで

◇来年5月21日(日)ご本山法要最終日、バス参拝費用7千円

◇来年度「三重組連続研習」受講者募集、オンライン15回

## ☆ 写真アラカルト ☆





坊守スケッチ

マラソンは人生に似ている

垂坂山展望台で出会った中年男性との会話が心に残った。

「私の趣味はマラソン。20年以上走っています。全国各地のマラソン大会にも出場しましたが、膝を痛めて毎日整形通いです。最近気づいたことがあります。約40キロの内、半分は我が力で走れますが、残り半分は周囲のおかげ。声援に励まされて走れるのです」

「へえ、私はマラソンをしたことがなく専ら散歩です。しかしそれはあなたの経験から生まれた含蓄のある言葉です。マラソンは人生に似ていますね」

一方では『人生はマラソン』に例えられることも数多くある。

例えば人生は平凡な日々の生活の繰り返し。その中でも自立心を試され、愚直さを求められ、継続を問われる。

丑年生まれの私は、牛歩の歩みのように「急がず休まずコツコツ歩み続けること」が、人生のモットーである。

またマラソンに於いても、一歩一歩の積み重ねがゴールへ繋がる。

華々しいレースの裏にある日々の練習の積み重ね、応援してくれる街の人々や友人や家族の声援、仲間との連帯感等、どれ程多くの人々に支えられたマラソン出場であったかが、年齢を重ねることに気付かされる。

マラソンは孤独なレースである。



ライバルとの競争に惑わされず、自分のペースを維持して、自分は自分という確固とした信念が必要だ。

とかく若い時は我が力を過信して目標に向かつて走り続けるが、夢破れた時に大きな挫折感を味わう。

「挫折の原因を他に転嫁する人と、自分の中に見つける人では、立ち直りの速さが違う」と、ある女性が言った。

「私は辛い経験をして転覆しかかった舟でしたが、阿弥陀様のお慈悲のおかげで、立ち直ることができました」

人生百年時代には、決して順風満帆な時ばかりではない。嵐にも直面する時もある。その時に投げやりにならずに、仏様の智慧の光に照らされて再び立ち上がる力を恵まれたものだ。

カンパありがとう

山中ツヤ子様、若松重子様、浜田ふみ子様、澤田美智江様他、志・切手に感謝

★小林春雄様(92歳・10月15日往生) 小杉1丁目 合掌

お知らせ

※12月3日(土)午前10時半より庫裏仏間で『お内仏報恩講』を勤めます。今年もお持ち帰り弁当を用意。複数の申し込みもOK。秋勧進の時に欠と弁当の数を受け賜ります。電話受付も可。

若坊守の子育て日記No.9

今年の報恩講も無事に終えることができました。有難うございました。毎年同じように見える報恩講ですが小さな変化の積み重ねでもあります。例えば、いつも来ていた方が高齢でお参りできなくなった一方で、初めてお見かけする方がいて、また、何度かお会いする内に気軽に会話できるようになった方もいます。

私が嫁いできた年の報恩講は一月でも寒かった覚えがありますが、今年には汗ばむほどの陽気でした。こうして大小様々な変化を重ねてきました。

報恩講二日目は祝日で、学校が休みの子供達も張り切ってお参りしてくれました。長男が「門徒さんとお喋りしているの、何を話していたの?」と聞くと「ちよつと世間話よ」と返答。

大人との会話は刺激的(?)で勉強になるようです。成長と共に、見えるものや考える事がこれからどんどん変化していくでしょう。しかし見慣れたお参りの風景も様々な変化を積み重ねて成り立ってきたということを忘れないでほしいと思います。



俳壇・歌壇

報恩講本堂お経秋日和

釋妙水

み仏に身を委ねたる秋うらら山装う県警鼓笛の学園祭

釋榮邦

水澄みて稚魚の影あり秋の川 苔皿に秋を移してミニ盆栽

釋住安

芋煮会みんな一緒に鍋囲み 柿を剥く皮の長さを競い合い 夕焼けし西方浄土近くなり

釋惠正

書き続け思惟深めてご開山

紙子の衣我を励ます

み仏を讃じ尽くして今がある

彌陀の励まし此処にも届く

善正寺小学生の楽しみは

夕方五時の鐘撞き集う

秋の朝父の革靴光りけり

のぞみ来て開くゲートへ秋の風

冬の風カーブミラーの揺れてをり

寒月の漏れ来る山路狐鳴く

松手入れ青空少し広がる

育てられ生かされて今喜寿の秋



☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」348号をお届けします。◇本紙は遠近各地からのお声や励ましに支えられて続いています。有難く、感謝申すばかりです。◇夕方5時の鐘撞きに集う親子、住所、名前を知らずとも仏の子の仲間です。本年のご愛読感謝・合掌。



早いもので今年は先代住職の33回忌、先代坊守の37回忌を  
迎えます。来る12月10日には、七き先代住職夫妻の年忌法  
要を勤めます。共に師走の忙しい時期の葬儀でしたが、皆  
様が丸となりお見送り下さいました。ことを改めて御礼  
申し上げます。先代住職は行年86歳、先代坊守は行年  
74歳でやや早過ぎる往生でした。当時私達は40代、子  
供は小者と小。現住職は大学勤務の一番忙しい時期で  
急遽私が得度をして僧侶のピンチヒッターを勤めた無  
我夢中の毎日でした。多分ご門徒様方の寛大なお心に  
許された時期でした。続いて教師資格も取得し、ご門徒  
様方への挨拶文のつもりで始めたのが善正寺だまりの「坊  
守スケケ」と毛筆書きの手紙です。あれから毎月発行  
し続けて30年の歳月が流れ、今回で第348号を迎えます。  
また15年前から善正寺のホームページを開設し、寺報をお届  
け出来ない人にも閲覧ができるようになりました。悩み事や仏事  
相談もネットで受け付けられるようになりました。更にはブ  
ログ「住職と坊守のつれづれ日記」を開設して毎日更新し  
ています。現在では通算約35万人が訪問して下さいまし  
た。お寺のありのままの生活を公開することで親近感を  
持つて頂ければ幸いです。おかげで遠方のお念仏の友とも  
繋がることで私達の大きな励みとなりました。師走の  
年忌法要を機に、七き先代住職夫妻の願いに添える  
ように、私達も更に精進を重ねます。皆様の協力によろ  
しくお願い申し上げます。

合掌

令和4年12月

善正寺坊守拝